

第361回山口西田読書会（2024年11月9日開催分）の Protokol

大藤 渉

1. テキスト：「左右田博士に答ふ」四の第5段落307頁12行目から第5段落309頁終わりまで

2. キーワードないしキーセンテンス

「自覚の意識の存立せられるかぎり、尚認識主観の意義を有し、何等かの意味に於て対象界が見られるのであるが、之を越えれば、全然所謂知識の領域を脱して、直観の世界に入る、而してそこに真の自覚が現れるのである。」(309, 8-10)

3. 考察及び問い

西田は、自覚とは「無限の深底」であり、「自覚の意識其者をも失ふ所に、真の自覚がある」という。西田によれば、「真の自覚」は、「対象界」（所謂知識の領域）を越えた所の、「直観の世界」に現れる。こうして「真の自覚が現れる」といわれるとき、そこでの経験内容とその変化はどのように説明できるだろうか。西田が「真の自覚が現れる」と言うことができるのは、ある経験内容を前提とし、経験内容を変えないままに考えているからではないだろうか。